

# ミュージアム 多摩

発行：昭和57年2月25日

## ごあいさつ

東京都三多摩公立博物館協議会  
会長 千澤 楨 治

昨今多摩地区の博物館の数も増え、文化事業も一段と層を厚くしている感がありますことは、誠に喜ばしいことであります。本会も設立後はや4年目を迎え、館相互の情報の交換や資料の貸出し等も順調に行われ、大きな成果を上げていることは、関係者の一人として大変うれしく思います。

また、全国的には、県・市立の博物館、美術館の新設が相次ぎ、資料の購入費も競って増額し、文化財の大幅な収集が進められておりますが、我々地域博物館の運営を担当するものとして、無関心ではいられないものがあります。そういう現実の経緯を見ながら、地域の博物館としての運営のあり方というものについて日頃から常に担当諸兄の研鑽が要求されるものと思われれます。

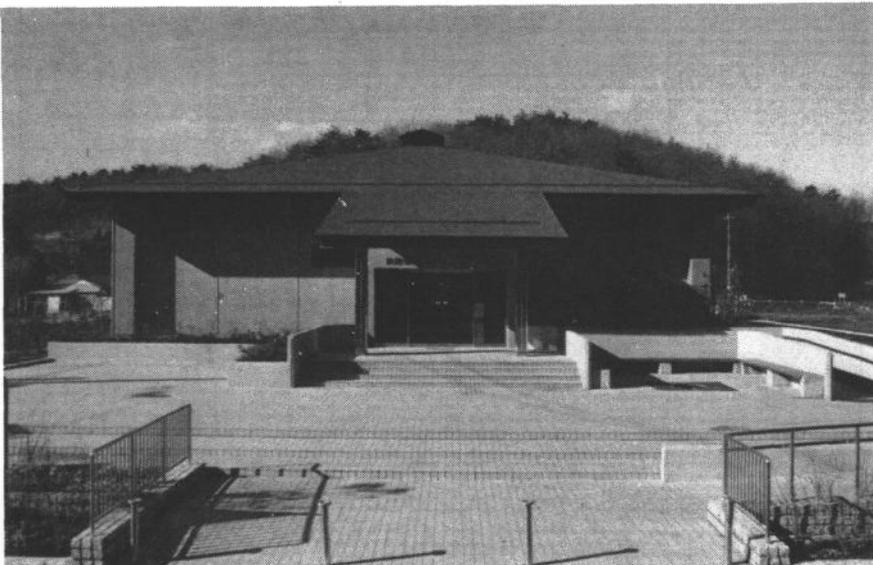
博物館とは、その名のごとくあらゆる「物」を対象とすべきもので、美術品に限られるものではなく、この博物館制度を外国から取り入れた明治初期には、美術工芸品、歴史資料、図書はもとより天産物まで、形あるものすべてを陳列する最も生活に密着した施設でありました。「物」の展示に当って、来館する各層の人々に何を伝達し得ているか、また、来館者が展示に

よって得た知的な質や量に、どれだけ満足していただけるものがあったかというようなことについて、常に反省をしなければならないでしょう。展示資料を通じて、その時代相や社会の仕組み、環境、また、その物を製作し、あるいは使用した人達の生き方などについて、認識を深められるよう十分な配慮が払われねばならないわけでありませう。

それには、一般識者の要望や援助にいつでも応えられるような、積極的な態勢を整え、社会教育機関として作品の収蔵、保存に加えて、人類の文化的遺産に目を向けるよう、一般大衆への啓蒙活動とともに、学術調査研究の機関として、学問の進歩に寄与する機能をも、積極的に推進すべきものと思われれます。展覧会やその他の教育活動を通じて、博物館、美術館が市民に親まれ、また、作品に対する深い愛着を覚えるような姿勢を方向づけるには、毎日毎日が緊張そのものであると存じます。

三博協は、この1年間町田市立博物館が運営を仰せつかりましたが、関係各位の一層のご協力をお願いし、本会のますますの発展を願うものであります。

## ○武蔵村山市立歴史民俗資料館開館 — 昭和56年11月3日 —



武蔵村山市立歴史民俗資料館全景

〔ご案内〕

〒190-12

武蔵村山市大字中藤6,343番地

TEL 0425-60-6620

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：月曜日、国民の祝日

毎月15日（館内整理日）

交通：国鉄立川駅北口よりバス  
箱根ヶ崎か三ツ藤住宅行  
（横田経由）バスにて  
横田下車 徒歩7分

展示：市内の歴史・民俗・自然  
に力を入れ、まちの移り  
かわりについて実物や解  
説パネルを中心に展示し  
ています。

## 〔 博物館活動のお知らせ 〕

## 展 示 会

館 名	展示会名	期 間	内 容
青梅市郷土博物館	千ヶ瀬遺跡と多摩の縄文	56.3.25~57.1.31	青梅市内千ヶ瀬遺跡から出土した土器の紹介。勝坂式直前にあたる土器と阿玉台式土器の展示。
	郷土の桶工展 — 桶と樽 —	57.2. 5~57.3.31	青梅市域に継承されている桶職を訪ね、その系譜をたどるとともに、市内に現存する江戸末期から明治~昭和にわたる作品(桶・樽)を紹介する。
奥多摩郷土資料館	小河内の郷土芸能 山村の生活用具	53.4~ 53.4~	東京都無形民俗文化財「小河内の郷土芸能」を展示。国指定有形民俗文化財「小河内の山村生活用具」を展示。
調布市郷土博物館	奥多摩の蝶	56.4~	奥多摩に生息する蝶を標本、写真により展示。
	郷土学習展「おじいちゃんの時代」	56.2.24~5.24	小中学生の郷土学習の参考にするため、調布の明治~大正期の村のくらしを衣食住等の生活資料を通して理解する。
	夏季特別展「装」	56.6.2~8.30	主として衣服や化粧道具、服飾品等を展示し、庶民の歴史の中で「よそおい」のもつさまざまな意味を考える。
	秋季特別展 武者小路実篤遺品展Ⅱ	56.9.10~11.15	昭和53年に当館において氏の愛蔵品の展示を行ったが、今回は「武者小路実篤遺品Ⅱ」として未公開の資料を紹介する。
	収蔵品展「調布の農具」	56.12.1~57.2.14	市内で使用された農具の機能と形態の種類を実物資料と図パネルにより理解する。また、市内東部地区の湿地地帯に特有の農具により農具と地域の関係を考える。
八王子市郷土資料館	郷土学習展	57.2.23~5.23	小中学生を対象とした郷土学習の参考とするため展示会。
	特別展「柵田遺跡群の調査」	56.5.19~7.12	市内柵田遺跡群の調査は、昭和49年度から7ケ年にわたって行なわれた。その中には国指定の史跡もあり、遺跡の意義と内容を知っていただくため、発掘された縄文時代から奈良、平安時代までの遺物を展示。
	特別展「多摩の神道・垂迹美術展」	56.10.27~11.22	日本に仏教が伝えられると、日本古来の神道はその造形美術の面で性格を変え、本地仏像や神像が作られるようになったり奉納品が豊富になった。これら神道・垂迹美術は、多摩地域においてはあまり研究公開されていない。よって一般に公開されることのないかかった本地仏像・神像・懸仏・経塚出土品・わに口・編額・太刀や薙刀などの奉納品・狛犬・古鏡・神楽面・絵馬などを展示公開する。
東村山市立郷土館	人物コーナー 農業のくらし展	57.2.16~3.28 55.6~	未定 長年にわたって使ってきた土と汗ににじんだ農具、民具を生産物別に展覧し、往時の生業を偲び、現在の変貌と豊かさを比較する。
府中市立郷土館	府中の野鳥展	56.5.12~16	愛鳥週間記念移動展(会場:市役所内市民談話室)
	第11回むさし府中の自然展—浅間山と人見街道—	56.7.22~9.6	自然調査の成果に基づく定期特別展。浅間山の自然と人見村及び人見街道の生活変遷史を探る。

福生市郷土資料室	市民芸術文化祭参加「刀剣展」	56.11.1~11.3	刀剣、甲冑等市民所蔵品を展覧。	
	武蔵国府展	57.2~5	武蔵国府関連遺跡発掘調査状況報告展。	
	福生市の成り立ちと人びとの歩みⅡ	56.4.1~57.3.31	昭和55年度において展示してきた「福生市の成り立ちと人びとの歩み」の路線を継続し歴史、民俗等の各コーナー展示を資料の交換、テーマの交代等によって、メインテーマの理解をはかる。	
	植物の標本展	56.7.31~8.31	昭和55年度までに福生市内において採集した植物の標本資料の中から、身近な植物である雑草についての展示。	
	写真展「石の文化財」	56.10.1~10.31	昭和44年度より市民の協力（参加）をえて実施してきた、市内石造遺物の分布調査において撮影したものの中から選び展示する。	
町田市立博物館	特別企画展「近代文学者の書跡」	57.2.1~2.28	近代文学者ののこした原稿等から、日本近代文学史を構成し展示する。	
	明治初期石版画展	56.4.21~5.24	美人画、風景画、歴史画等の1枚絵170点、挿絵本20冊等、明治20年代後半までの作品を展示。	
	武相の民俗芸能展 一面、人形、頭、衣装一	56.6.2~7.12	神楽面、芝居面、人形芝居の頭、獅子頭、山車人形、衣装等150点、写真パネル等も併せて展示。	
	町田の古代文化展 一縄文時代から平安時代一	56.7.21~8.30	縄文時代から平安時代までの各遺跡から出土した土器、石器、装身具、宗教遺物、植物炭化資料、鉄製農耕用具、鉄剣等200点を展示。	
	衣装にみる民族の知恵展	56.9.8~10.11	世界27ヶ国、38種の民族衣装を展示。併わせて付属品、写真パネルも展示。	
	創作版画のあけぼの展	56.10.20~11.29	大正期から昭和期までの同人誌「月映」「版芸術」「版画芸術」「白と黒」「きつつき」「Hanga」「風」「版画座」等を一堂に集め展示。	
	町田の手工と諸職展	56.12.8~57.1.31	手工とは藁細工、竹細工等をいい、諸職とは屋根葺き、桶屋、鍛冶屋等で、これらの各種製品やその製作工程、使用用具などを紹介。	
	日本の古地図展	57.2.9~4.11	渡辺紳一郎コレクションの江戸時代の古地図を展示。紙仕立地図の他、陶磁器製地図皿、屏風、扇子、根付け等に描かれている日本古地図を展示する。	
	瑞穂町郷土資料館	思い出の写真展	56.4~	町民の所有する古い写真を集め展示。
		武蔵村山市立歴史民俗資料館	常設展	56.11.3~
東京農工大学工学部附属繊維博物館	ポビンレース展 (福山有彩作品)	56.2.2~3.15	中世ヨーロッパにて盛んだったポビンレースの復元品約40点を展示。	
	紹刺しと手描き更紗展 (多田寿美江、岩見登子作品)	56.3.17~3.30	日本古来の紹刺指操と更紗模様の展示約20点。	
	手つむぎ作品展 (小川朋子作品)	56.4.1~5.18	羊毛の手紡ぎ草木染ニット品等約30点展示。	
	特別展「服装の変遷」	56.4.12~4.19	古代から近代までの女性服装史、復元品を中心に日本、西洋の服装70点を展示。	
	俳画展 佐藤紙魚作品	56.5.18~6.26	水彩画一筆画として知られる日本伝来の俳画約20点を展示。	
	フランス刺しゅう展 (藤原裕子作品)	56.6.26~7.27	ヨーロッパ式の刺しゅう、ベットカバーなど約20点を展示。	

後藤コレクション展 (後藤毛織寄贈品)	56.7.31~	明治期の後藤毛織会社(岐阜)の遺品約50点を展示。
高分子の歩み展 (高分子学会)	56.9.14~10.24	高分子学会30年記念としての記念行事「高分子の歩み80年展」。
重ね折り紙展 (作久間八重作品)	56.10.26~11.30	日本古来から伝わる折り紙人形、十二単衣など重ね折り紙で表現したもの約20点を展示。
特別展「北関東の織物」	56.11.14~11.23	東の西陣といわれる桐生地区を中心とした織物の歴史、産業を展示。
友の会サークル作品展	56.12~57.3	友の会5サークルの作品を展示。

## 教育普及活動

館名	種別	題名	期日	講師	備考
青梅市郷土博物館	講座	自然科学講座・植物観察	56.6.28	市文化財保護指導員 中西 勲	全5回
		民俗学講座・民俗学入門	56.9.19~10.24	日本常民文化研究所 中村ひろ子 河岡 武春	
	体験学習会	桶を作る	57.2 予定	市内の桶職を予定	
奥多摩郷土資料館	講座	古文書講座	56.5~56.11	町文化財委員長他	於町福社会館
調布市郷土博物館	講習会	草履作り講習会	56.10.18		参加自由
	観察会	自然観察会	56.10 中旬	町誌編纂委員他	参加自由 1回
	講演会	すまいの移りかわり	56.5.2	東海大学助教授 稲葉 和也	
		庶民文化とよそおい	56.7.11	武蔵野美術大学 神保 教子	
	講座	日本のやきもの	56.6.4~7.16	学芸員金井安子 八王子御屋敷窯 吉田 明	全4回
		郷土の暮らしを語る会	56.7.25~8.8	学芸員関口宣明	全3回
		夏休み子供歴史教室	56.8.25~8.27	学芸員関口宣明 " 小野崎満 " 金井安子	全3回
体験学習会	土器づくり 注連縄・わらじ・ぞうりづくり	56.8.12 56.12 予定	学芸員小野崎満		
八王子市郷土資料館	映画会	学習映画会	毎月第1土曜日		
	講演会	縄文と弥生のムラ	56.6.14	立教大学講師 岡本 勇	特別展記念講演会
		多摩の神道・垂迹美術について	56.11.8	女子美術大学講師 学芸員斉藤経生	"
	講演会	春の特別講演会	57.3	未定	2回開催
	講座	八王子車人形の公演 親と子の歴史教室	56.10.17 56.7.31、8.7~9	西川古柳座他 郷土資料館運営協議会委員他	於八王子市民会館 全7回

府中市立郷土館	講演会	郷土の歴史を探る会 —神々の歴史と文化—	56.10.31~11.22	青梅市郷土博物館 長 稲葉松三郎	全4回
		昆虫の飼い方とホタルの 一生	56.8.17	多摩動物公園昆虫 館 宮路忠良	夏季特別展講演会
	観察会	武蔵国府遺跡発掘調査報 告	57.3 予定	未定	春季特別展講演会
		多磨霊園の野鳥	56.5.10	自然調査団調査員 相馬尚教	愛鳥週間記念行事
	講座	武蔵野段丘崖の植物	56.6.14	同上曾根伸典	環境週間記念行事
		多摩丘陵の地形と地質	56.6.28	〃 島村勇二	
		秋の鳴く虫の音を聞く会	56.9.26	〃 青木 良	
		立川段丘崖の地形と地質	56.11	〃 島村勇二	
		多摩川の冬鳥	57.2	〃 相馬尚教	
		春の植物を訪ねて	57.3	〃 曾根伸典	
夏休み親子自然教室		56.8.9・16・30	〃 青木良、曾根 伸典、島村勇二	夏季特別展記念講 座	
史談会例会		東国の古墳と武蔵国造の 争乱他	毎月1回	外部講師及び会員	講演会、会員発表 会、史跡見学会等 を開催
福生市郷土資料室	講座	初心者古文書講座		文化財保護審議会 委員 北原 進 資料室職員、市古 文書研究会員	古文書の読解と多 摩地域史の学習
		婦人セミナー「柳田国男 の世界を読む」	56.5.26~9.22	市文化財保護審議 会委員 河上一雄 資料室職員	全10回 民俗学の学習と多 摩地域の民俗の学 習
	同上「近代史入門」	56.10.9~10.30	市文化財保護審議 会委員 新井勝紘	全4回 明治初期の多摩地 域史の学習	
	同上「私の民俗誌の作成」	56.11~57.3	河上一雄 資料室職員	全10回 自分史と して「私の民俗誌」 を作る	
	子ども天文教室	56.4.24~11.20	安川和幸 資料室職員	全8回 四季の星 座・星雲・星団と 惑星について学習	
	夏休み自然科学教室		安川和幸 資料室職員	気象の観測を通し て天気の変化を学 習	
	町田市立博物館	講演会	明治の石版画について	56.5.17	神奈川県立鎌倉近 代美術館 青木茂
武相の民俗芸能			56.6.21	国立劇場専門員 西角井正大	
瓦のうつりかわり			56.8.2	駒沢大学教授 倉田芳郎	
武相の民俗			56.11.1	成城大学名誉教授 大藤時彦	
創作版画の人々			56.11.15	版画家小野忠重	
日本の古地図			57.3.7	日本地図センター 佐藤 侑	

瑞穂町郷土資料館 武蔵村山市立 歴史民俗資料館	映画会	民俗映画とお話の会	56.5.24、8.23、 57.2.28	学芸員 畠山 豊	全3回
		市内古代遺跡見学会	56.7.23・30	川松康人	全2回 バス見学会
		竹カゴ細工をつくる会	57.1	竹カゴ職人 萩生田長吉	
		鳥屋の獅子舞 相模人形芝居	56.6.13		
		文楽 相模人形芝居	56.6.20		
		ルーブル美術館	56.7.11		友の会対象
		縄文土器 なすな原遺跡	56.7.25、8.30		
		絶海の島々 アジア・オ セアニアの動物達	56.8.1		
		まぼろしの狼	56.8.15		
		大昔の生活 鉄剣は語る	56.8.16		
あらいぐまのいたずら日 記、多摩川	56.8.29				
東大寺大仏殿昭和大修理	56.11.14		友の会対象		
瑞穂町の史跡めぐり	随 時	町文化財審議委員	小学生・婦人団体他		
狭山丘陵の自然	56.11.8	日本野鳥の会	開館記念講演会		
武蔵村山の歴史	56.11.15	荻野 豊	"		
村山織物のあゆみ	56.11.22	市文化財専門委員 村山美春	"		
東京農工大学工学 部附属繊維博物館	講座	多摩の近世史	57. 1~2	未 定	全5回 定員40人
	講演会	中国の手抄技術の現状	56. 5. 2	潘 吉星	対象は特別招待者
	講習会	伝統織物と草木染	56. 7. 3	並木 覚	" 本学婦人懇
		宇宙をさぐる	56. 7. 7	村山定男	" 一般
		カード織	56. 2.10	並木 覚、岸田	" 友の会
		ひも結び	56. 2.24	小林平男	" "
		ポピンレース	56. 3. 9	福山有彩他	" "
		手づくり和紙の花	56. 5.22	海部桃代	" 一般
		わらべはり絵	56. 6.19	小路 和	" "
	学習会	インドの染織	56. 5.16	石橋 裕	" 産業考古学会
	見学会	町田市立博物館「養蚕展」	56. 2.21		" "
		藍染とシルクロード	56. 3.28	館員	" 友の会
	催物	たなばた祭	56. 7. 7		" "

## 山村のくらし

奥多摩町の旧小河内村地区は小河内貯水池建設のため、峰谷川に沿った一集落だけを残して他は全部水没して昔の姿は見るとはなりません。

奥多摩郷土資料館はこの地域住民が汗にまみれながら使用した生業用具と生活用具、そのゆとりのないくらしの中に一村の和楽を求めた祭礼風景（民俗芸能）の再現及び災厄から脱出しよう、安楽を得ようと朝に晩に礼拝願かけをしたであろう路傍の石仏類の一部を収集して昔を偲ぶよすがとしています。

小河内の生活—それは取りもなおさず山村の生活

## 奥多摩郷土資料館 館長 大 館 勇 吉

そのものの見本です。奥多摩町地内には現在でも一畝の米田もありません。昔の村人たちの食生活が豊かであった筈はありません。主食作物として挙げられるものは、大麦、粟、稗、蕎麦、大豆、芋、何首烏等で換金作物としてはコンニャク芋と少量のワサビと養蚕だけで、小麦、大豆等は贅沢な作物と考えられていました。江戸時代に備荒貯穀を行った郷倉のことをこの地方では「へえぐら（稗倉）」と呼び貯穀物は稗でこの稗は「御稗」と呼ばれました。

奥多摩地方では小正月の行事として、ああぼへえぼ

(粟穂稗穂)飾りと、めえだま(繭玉)飾りをします。いうまでもなくこれはその年の豊作を願う心情からの祝事です。この粟穂稗穂と繭玉飾りは生活にかかわるあらゆる所へ飾るのです。室内では大神宮、年神、荒神(竈神)、水神(水がめ)、えびす、床の間、仏壇、白場等、屋外では庭先、大便所、堆肥舎、納屋、畑等でこれは大正月の松飾りも同様でした。

江戸時代の産業統計は定かではありませんが、こんなに熱心な豊作祝事をしたとしても食料が自給できたわけではないのです。村人の多くは木炭を焼いてこれを取引先の商家へ出荷、そこから米塩を物々交換式に通帳によって精算していました。

繭玉飾りは養蚕の豊作を願う祝事です。米又はトウモロコシの挽粉で球形又は繭形の団子をつくり、これを楓又は梅の枝先にさすものです。座敷へは挽臼を根堅めにして畳3・4帖に及ぶ繭玉飾りをします。これには繭玉のほか種々の縁起物や蚕種紙、おしら様のお札等をつるし、また枝から枝へ糸を引きまわして蚕が繭つくりのためにする、あじかけの形をすることもあります。もっともこの地方では蚕まぶしの代わりに柵枝を使って繭を作らせていました。

宝暦3年の小河内4村(原、河内、川野、留浦)の村鑑帳に、  
一農業間 男ハ耕作のこやし支度ニ相懸り稼ニハ少々  
ツ駄賃取仕候 女ハ作間ニハ布太布少々ツ仕候。  
とあり、これは奥多摩地方の各村々の書上もだいたい同様で、中には「蚕少々仕候而御年貢えたしに仕候猪鹿三拾年以來宛向諸作并漆若生段々喰枯し申候」と

もあり、山村のくらしの様子が想像できましよう。

奥多摩町地内の畑は急傾斜地でこれを耕耘するのはたいへんです。常に谷側へ向って鋤を使い耕土を下から上へかき上げるのですがこれを怠ればたちまち畑頭の耕は無くなります。このため巾の極めて狭い手鋤か二本又の鋤を使います。ふんがあ(踏鋤一鋤)の使える所は僅かな一部分だけです。水肥も荷ない桶は使わず、耕土を踏みくずさないように柴や茅束を条並べにして土止めをします。

小河内は民俗芸能の宝庫です。中でも鹿鳥踊り(男子女装)は国の無形文化財で、車人形、花神楽、さくら獅子舞は都の無形文化財に指定されています。さくら獅子舞は奥多摩全域の代表的民俗芸能で現在でも町内の14集落の祭礼で行われています。文化財といえど奥多摩郷土資料館に展示されているものとしてこれら民俗芸能物のほか民具類の大部分も国の重要民俗資料に指定されているものです。

奥多摩郷土資料館の敷内には小河内の旧原村地域にあった石仏類が建立されていますがこのうち最も多いのが馬頭観音です。馬は木炭運搬の主役でしたが危険個所の多い道路のため時々転落事故を起こしました。馬頭さまはこの馬の安全を願い、また遭難馬の供養のため造立されたものです。馬方たちは時々観音講を行なって役馬の安全を祈りました。また道路事情が悪く馬も使えず、近年まで人背運搬だけにたよっていた所もあったのです。

## 八王子市郷土資料館における博物館実習

### 八王子市郷土資料館

学芸員 佐藤 広

当館での実習生の受け入れは、これまで11年度にわたって行なってきた。はじめのころには、特別な実習生の受け入れ条件や実習の計画を持たずに博物館実習を実施してきたが、次第に実習希望者が増加してきたことなどもあって、博物館実習にともなう種々の問題が顕在化してきた。

そこで、昭和51年度から受け入れ側としては職員数も少なく施設も限られているので、多数の実習生を受け入れることも不可能なため、受け入れ条件を定めたり、実習を計画的かつなるべく体系的に行なうため実習日程表を作成して受け入れることをはじめた。昭和51年度以降も、実習依頼のあるごとに職員間で問題点を話し合い、少しずつ実習方法の改善をしながら行なっている。

それでは、昭和56年度の博物館実習の例を中心に報告してみる。

毎年夏期を中心として、5～8名の実習生を二週間

受け入れているが、その受け入れの条件としては、①市内出身者・居住者を最優先とする、②次に市内の大学に在学している者を優先とする、(この2点を核にするが、実習生が一つの大学に偏らないようにしている。)③実習中における実習生の事故についての責任は負えないこと、④実習生は実習終了後、必ずレポートを提出する、以上の4点である。

①、②は多数の実習希望者があった場合の選考基準で、当館が八王子市立で地域を基盤とした博物館であるという性格からつくられたものである。③は、実習において当然考えておかねばならないことで、館外での交通事故や館内での不慮の事故の場合、大学や学生の家族などに対する責任を負いきれるものではない。④は学生自身に対するもので、レポートは自由なテーマで提出してもらっている。レポートの提出がなかったり学生に不誠実な行為があった場合には、その学生の属していた大学からの受け入れは行なわないことと

している。

なお、受け入れに先だって実習希望者には、履歴書を持参し面接を受けてもらっている。

昭和56年度には四大学六名の実習生を受け入れた。原則として全職員に半日か1日以上小テーマを持って担当してもらうこととして作成した。このことは、実習生に当館の業務の全体を知ってもらうためと、職員にとっては、自らの仕事を振り返る機会とするためでもある。さらに、全職員で博物館実習に対応することは、館内のチームワークづくりにも有効である。

実習内容は、写真撮影・現像焼付・拓本のとり方・資料のあつかい方・催物の準備や補助などの実技を主なものとしているが、前半は比較的郷土資料館の概説など講義形式をとっている。実技を充実させようとすると実習生をごく少数にしなければならないし、一方では実習希望者が多いのでなるべく多数の実習生の受け入れをとも考えると、なかなか実習の方法を定めるのに困難である。

実習の期間中に、催物のある場合には積極的に参加させている。それは実際にはお手伝いでもあるが、なるべく催物の全体の流れを示しながら会場の設営、印刷物の作成などの個々の作業の意味を理解させるよう

にして行なっている。単にアルバイト的に実習生をつかうことは避けている。

こうした当館での博物館実習は、確固とした教育活動の一環として明確に位置づけられているわけではなく、現実の業務を考慮しても特別展などの仕事を優先させなければならず、必ずしも日程表のとおり実習が進むわけではない。職員の仕事の都合によって日程は変更される。

これまで報告してきた博物館実習のかたちと内容はまだまだ館内で議論のある個所も多く、現在は試行の段階である。

近年学ぶ意欲のあまりみられない実習生もあつたりして、誠に残念に思うこともあるが、とにかく実習を機会に学生が博物館に関心を持つよう努力し、後に博物館職員とならなくとも、良き博物館の理解者になおばと考えつつ博物館実習を行なっている。

なお、博物館実習に関する問題には、当然現場だけでは解決の見込みのないものもあり、実習を“させてやる側”と“してもらう側”の関係だけでなく、広く博物館の社会的役割や将来を考え、現場を踏まえての大学との話し合いも必要であろうと考えている。

## 職員紹介

### 宮田 満さん

(福生市郷土資料室)



福生市は、戦後、米軍横田基地を中心とした基地の町として知られた。都市化の進行も急激で、都市としての基盤整備が不十分なうちにその波を受けてしまったのである。

昭和47年、急激な発展の途上にある当市役所に彼は迎えられた。以後、学務課、企画財政課と勤務し、文化財の担当となったのは5年前、すでに消滅してしまった重要資料も数多くあった。そのような状況にあって、彼は文化財の保護思想の普及啓蒙に努力し、さらに博物館の建設に向けての構想、活動計画等をまとめあげる。

彼の一举一動には確たる信念があり、その生きざまには哲学がある。頑固なまでの仕事に対する姿勢・情熱。常に最大限の努力をもって行動する。その努力をもってこそ、規模が、しても、資料の点数からしても、小さな自治体にすぎない当市において、郷土資料室というひとつの“やかた”を構えられたのである。

一方、土蔵の中で何十年も日の目を見なかった資料を目覚めさせ、古文書を通してその時代と対話することで、大きな研究成果をおさめている。

五日市に生まれ30年、少林寺拳法は有段者と聞く。彼は言う「祖先の残したものを次の世代に伝えるのが俺たちの役目だ……」。

天野幸次

## 編集後記

昨年の11月3日(文化の日)に、武蔵村山市立歴史民俗資料館がオープンいたしました。これからの益々のご発展をお祈り申し上げます。

〔博物館活動のお知らせ〕は、各館とも活発な事業が行なわれているため、紙面の関係上、展示会と教育普及活動のご報告のみとさせていただきます。

(Ka)

発行：東京都三多摩公立博物館協議会

〒194 町田市本町田 3,562

町田市立博物館内

☎(0427)26-1531

編集委員：川松康人 近藤晏伸

佐藤 広 横尾友一

印刷：福川印刷 町田市忠生3-6-5